イエスの教え -3- 聖書通信 13

神が最初の人類に「額に汗して食物を得なければならない。」と言われたように、私たちは生きていくために奮闘しなければなりません。
物質的なものを家族に備える点で不安になる場合が多いものです。
どのように対処できるのでしょうか。

今日はその点についてイエスの教えに注目してみましょう。

天に宝を蓄えよ

私たちは目に見えるものに心を奪われる傾向があります。
物質的な富や快楽を求めています。
また将来への不安から財産、富、金銭などをむやみに蓄えようとする傾向があります。

それに対してイエスは次のように諭していきます。

> 6:19 あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。
> 6:20 むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。
> 6:21 あなたの宝のある所には、心もあるからである。

地上ではなく、天に宝を蓄えるように教えました。天に宝を蓄えるとはどのような意味でしょうか。
無私の愛から立派な業を行うということです。そのような行いは不滅であるとイエスは教えました。

目が明るいように

> 6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう。
> 6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。

目は目標や目的を表します。またそれは心の状態を示しているとも言えます。
正しい目標、目的を持つようにイエスは諭しています。

神と富とに兼ね仕えることはできない

誘惑する一つの目標は富を追い求めることです。

> 6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

私たちは富を求める傾向があります。しかしイエスは私たちの命の源である神に仕えるように諭しました。
確かに富は安心感や快楽を与えるかもしれません。しかし移ろいやすく消えやすい不安定なものです。失うのではないかという新たな不安も生み出します。

真の幸福と安心感は全能者のもとにあるとイエスは教えていきます。

思い煩うな

私たちは明日の生活を心配する傾向があります。それは自然なことです。しかし過度に煩うならどうでしょうか。
平安な思いを抱けなくなってしまいます。
それでイエスは私たちを助けるために次のように述べています。

> 6:25 それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。
> 6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。
> 6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。
> 6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。
> 6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。
> 6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。
> 6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。
> 6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。
> 6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。
> 6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。

神は鳥や花など様々な生命を養っている

神は私たちを創造され、生きていけるように雨や太陽、様々な食物を備えたのではないでしょうか。
鳥や様々な生物は神によって養われています。人は神にとって最も貴重な存在でないでしょうか。
神に喜ばれる人として歩むなら、生きていくのに必要なものは備えられると述べています。

人を裁くな

人間関係で悩む方も多くおられます。
どうすれば良いのでしょうか。

> 7:1 人をさばくな。自分がさばかれないためである。
> 7:2 あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。
> 7:3 なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁（はり）を認めないのか。
> 7:4 自分の目には梁があるのに、どうして兄弟にむかって、あなたの目からちりを取らせてください、と言えようか。
> 7:5 偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるだろう。

人を高く評価するならその人も高く評価して頂けます。
しかし人の欠点にばかり注目するなら人間関係はうまくいきません。
自分にも大きな欠点があることをわきまえておくなら、そのような事態を避けることが出来るでしょう。

聖なるものの価値を分からない人に与えるな

> 7:6 聖なるものを犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。恐らく彼らはそれらを足で踏みつけ、向きなおってあなたがたにかみついてくるであろう。

「豚に真珠」ということわざがありますが、この聖書の言葉が元になっています。

求めなさい

祈りをしてもなかなか聞き届けられないのが現実です。
しかしイエスは次のように述べ、あきらめないことの大切さを教えています。

> 7:7 求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。
> 7:8 すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。
> 7:9 あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。
> 7:10 魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。
> 7:11 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか。

神は愛に満ちておられます。とはいえ愛情深い親は子供の願いをいつも聞くわけではありません。
甘やかすなら感謝の思いは欠けていくでしょう。
しかし真剣に願い求めるなら親が子供の願いを聞くように、神は道を開いて下さるのではないでしょうか。

黄金律

黄金律として知られる有名な教えがあります。それが次の言葉です。

> 7:12 だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である。

「人に迷惑を掛けてはいけない」とよく言われますが、イエスの教えは積極的なものでした。愛を実践するように教えたのです。
あるホテル経営者はこの教えを当てはめることによって、文字通り巨万の富を作ることが出来たと言われています。

命に至る道

真の命に至る道はどのような道なのでしょうか。

> 7:13 狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。
> 7:14 命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。

多くの人は残念ながら真理を見いだせず、見いだしたとしてもその価値を認めず、滅びに至ってしまうと警告しています。

偽ものに警戒せよ

キリスト教全てが正しいのでしょうか。
残念ながらそうではありません。

> 7:15 にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。
> 7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。
> 7:17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。
> 7:18 良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない。
> 7:19 良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。
> 7:20 このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。

真のキリスト教はその実によって見分けることが出来ます。
愛と平和と正義を追い求め、聖書に堅く付き従っている人々こそ真のキリスト教であると言えます。

言葉だけでは救われない

> 7:21 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。
> 7:22 その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わた

したちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。
7:23 そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』。

言葉だけではなく、行いを正す必要があることを示しています。

賢い人と愚かな人

本当に賢い人とは誰でしょうか。
イエスはこの話を次のように締めくくり、本当に賢い人になるように勧めています。

7:24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。
7:25 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。
7:26 また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。
7:27 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである」。
7:28 イエスがこれらの言を語り終えられると、群衆はその教にひどく驚いた。
7:29 それは律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように、教えられたからである。

「砂上の楼閣」と言うことわざがありますが、これもここから出来た言葉です。
良いことを学んだとしても実践しないならどのような意味があるでしょうか。
例えば、難しい病気を治療する特効薬があるとしても、病気にかかった人がそれを服用しないなら意味があるでしょうか。
神の言葉はそれ以上のものです。私たちの真の命を左右するものだからです。

しっかりした土台の上に家を建てる

私たちを創造された方が、イエスを通して真の命に至る道を示して下さっているのです。
その道を歩むようにイエスは強く勧めました。
なぜならその価値を真に知っていたからです。

真の救いに至る道は真の神と神が遣わされたメシアを知ることしかないのです。